



「ふるさと研究活動」は、子どもからおとなまで、幅広い世代の市民のみなさんの参加により、ふるさと所沢の自然・歴史・芸術・文化・産業など、様々な分野の資料や情報を集め、調査・研究を深めてゆく活動です。「所沢のことをなんでも知りたい！」方のご参加をお待ちしております。

Q&A「市民学芸員」

ふるさと研究活動を充実させていくためには、市民の皆さんの協力が必要となります。市民学芸員は、ふるさと研究活動にボランティアとして参加し協力していただくものです。



Q1 市民学芸員が活動する場所は

生涯学習推進センター3F、4Fのふるさと研究エリアになります。3Fには、常設展示室、企画展示室、メモリアルルーム、閲覧学習室、体験学習室があります。4Fには事務室のほか、作業室や調査室などがあります。

Q2 市民学芸員はどんなことをするのか

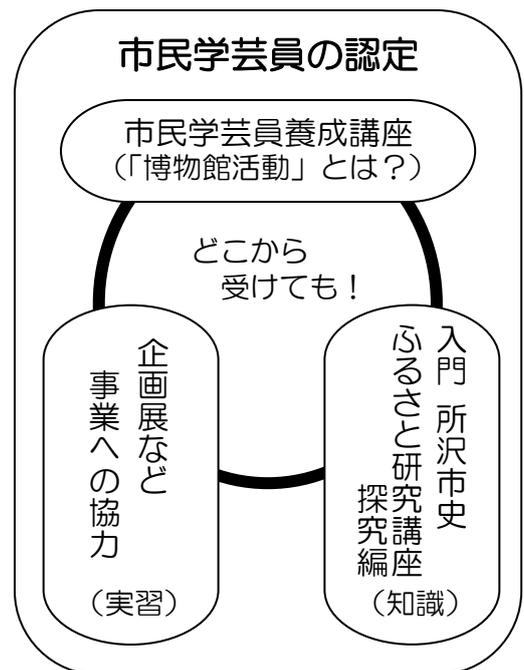
生涯学習推進センターが主催する企画展示や講座、観察会等の事業に協力していただくこととなります。具体的には、企画展示の補助作業や、講座や観察会等の補佐などを想定しています。

Q3 市民学芸員になるには

ふるさと研究が主催する講座の受講と、実習として活動に参加していただきます。(右図参照)

Q4 市民学芸員の魅力は

企画展などの事業に協力していただく際に、その事業の内容についての講習会等を開催するので、活動に参加することで、より深く学ぶことができます。



12月にご覧いただける展示など

場 所	内 容
常設展示室	所沢の歴史・民俗・自然など
メモリアルルーム	並木東小学校の「記憶」
南棟3階階段脇掲示板	写真で見る所沢の移り変わり 12月28日(火)まで
3階中央棟廊下壁 今月の航空写真	昭和30年代の所沢市全域

秋季企画展「ところざわ60年」では、市制施行後「所沢市」60年の歴史を追う三択クイズ60問を配布しました。その中から、基本となる12題を2つずつ6回に分けてご紹介します。

Q 昭和26年の埼玉新聞の記事見出しです。
「池辺に緑の松並木 人々を招く自然の仙境 所沢の県立()公園山口貯水池」

- ①奥武蔵 ②航空 ③狭山

正解 ③

30年代編と言いながらなぜか26年の問題で、新生所沢市の「方向性」がテーマとなります。

市制施行後の所沢は、首都圏後背の住宅都市化を「寝台都市」と呼んで否定的にとらえ、一時、工業化や観光資源の活用による「生産都市」を構想していました。狭山湖周辺は昭和2年に県立狭山自然公園に指定され、その構想下、西武鉄道や市観光協会等の肝煎りのもと、近郊型の観光地として整備が進むこととなります。

Q 昭和31年、市は産業発展のため「所沢市()」という条例を制定して工場の誘致に乗り出しました。

- ①工場誘致条例 ②工場設置奨励条例
③工業振興条例

正解 ②

経済発展を促進する工業開発は、地域の発展上大いに歓迎すべきものとされ、昭和31年に「所沢市工場設置奨励条例」が制定されます。一定規模以上の工場を対象に、事業開始から3年間奨励金を交付するという内容で、パイオニア（平成19年撤退）、池袋瑠珈、鷺宮製作所、スーパーバックなど、所沢の代表的な工場がこの時期進出しました。

「初」飛行こぼれ話



ふるさと研究市民トピック vol.18

所沢は、明治44年（1911）にわが国初の飛行場が開設され、同4月5日には初飛行が成功したことから、航空発祥の地として内外に知られています。

ご存知のように、わが国における初飛行は前年の43年12月19日に代々木練兵場（現代々木公園）で達成されました。アンリ・ファルマン機を操縦した徳川好敏大尉によるものです。明治42年に発足した臨時軍用気球研究会は、飛行機購入と技術の修得のため徳川大尉と日野熊蔵大尉を欧州に派遣しました。徳川大尉はアンリ・ファルマン機とブレリオ機を、日野大尉はライト機とハンス・グラデー機を購入し帰国、代々木練兵場で訓練を積み見事初飛行に成功します。しかし非公式には日野

大尉が12月14日にすでに飛行に成功していたともいいます。初飛行の快挙を徳川家の血筋である徳川大尉に帰すため、軍は日野大尉の飛行を試乗滑走としたというのです。

やがて開設された所沢飛行場で、徳川大尉はアンリ・ファルマン機で、日野大尉はライト機で飛行に成功しました。その後も飛行訓練は繰り返され、飛行時間や距離の記録は次々に塗り替えられていきます。

明治43年から100年経った平成22年、日野大尉の出身地である熊本県人吉市から、所沢における大尉の事績について照会が寄せられました。それぞれの地に初飛行100年の歴史が、そして来たる平成23年、今度は飛行場の地所沢が『100周年』を迎えます。